

山の自然学ツアーの実施と第1回・富士山須走口 富士山の不思議・グランドキャニオンと幻の滝を見よう！のご報告

中村華子

山の自然学クラブでは、自然を深く識り、自然に親しむために、創設時から講座事業やインタープリター活動、指導員養成プログラムを行ってきました。しかし、登山者やトレイルランナーなどが増加していたり、野生動物の増加や人間との棲み分けが大きな問題となったりする中、自然に対する正しい知識をもってつきあっていくことが大切です。人と自然とのつきあい方を考えて頂く機会を増やすなど、山の自然学クラブが大きな役割を果たしていきたい、そのためにはもっとたくさんの方に、講座や行事、活動に参加してもらおうようにすることが大きな課題のひとつです。そこで、今年から旅行会社とのタイアップをして、一般の方をご案内するツアーを企画してみました。今年はそれほど多くの方をご案内することはできなかったのですが、携わった会員にはこれまでとは違った刺激になったのではないかと考えています。今後、よりよい方策を模索しながら、裾野の拡大ができるよう、検討したいと思います。

豊かで美しい日本の自然を、深く理解し大切に思うこと、そしてさらにその自然を実感し楽しむための技術や見方を身につけていくこと、その機会を継続的に提供していくこと、私たちのできることはまだまだあるのではないかと考えています。

2015年、まずは日頃いろいろとお世話になっている株式会社アトラストレックさんに催行をお願いして、「山の自然学ツアー」を企画してみました。山の自然学ツアーの第1回は、残雪と新緑の季節の富士山須走口で企画しました。概要は以下の通りです。

ご参加頂いたみなさん、お世話くださったアトラストレックさん、ありがとうございます。

開催日： 2015年5月16日(土)

参加者： 会員4名、一般7名、アトラストレックのガイドさん1名、
自然再生活動部会メンバー6名

日程と見学地：

8:00 八王子駅南口集合 バスに乗車 ～道の駅・すばしりへ
須走口5合目 ～小富士 ～富士山グランドキャニオン ～馬返し
須走口御中道 ～幻の滝(5合目駐車場から往復)
須走浅間神社、鷹丸尾溶岩流(937年)の先端 ～部会メンバーは現地で解散
日帰りの参加者は八王子駅までバスに乗車 ～19:00八王子駅南口にて解散

概要： 富士山は複雑な火山活動によってできています。この講座では富士山の火山活動や、溶岩流の上を流れる雪解けがつくる滝を観察し、「富士山全体のつながりで自然をみる」「麓にわき出る湧水の秘密を考える」観察会として企画しました。

地球の営みと富士山の意外な関係？を実感しながら、ダイナミックな風景と新緑の中のハイキングを楽しんで頂きました。



小富士の頂上にて 参加者のみなさんと

小富士からは富士山の山頂から山中湖、富士吉田まで見渡せる、すばらしい景観が楽しめます。広く見渡せるため、籠坂峠から御坂山地、富士山の山頂から裾野にかけての地形の様子もよく観察できます。麓にひろがる森林植生も、色の違いでよくわかります。そして、もうひとつのポイントはこの日の最後の見学地、鷹丸尾溶岩流を見下ろすことができることです。



小富士近くでみられたカラマツの稚樹（左）とオンタデ（右）

小富士の山頂部付近には植物があまりありません。地形が高まっており、冬は凍結してしまうのだと考えられます。少し離れると、左写真のようなカラマツの実生がたくさんあります。動かない溶岩にコケが生え、そこに飛んできたカラマツの種子が定着して芽生えたと考えられます。苔が水分を保ったり風を防いでくれたりして、実生が生き延びることができたのでしょう。パッチ植生のひとつの始まりの形です。このような小さな植生群落が周囲にはたくさんあり、どのような植物がどんなところに生えてくるのか、観察することができます。右写真のオンタデも小さく見えますが、何年も経っている個体です。小富士周辺は従来古富士と呼ばれる星山期（BC15,000年以前）の噴出物で覆われています。火山泥流の堆積物も見られます。小富士の周辺では、岩石の動きが少なくなり、噴出物や風で飛んできた土砂が徐々にたまってきて、植物が少しずつ定着して増えていっているようです。



幻の滝に向かう道中のカラマツ

幻の滝までの往復では 600 年に流出した海苔川溶岩流の上に定着した草本類やカラマツが多く見られます。強い冬の季節風が山頂のある西側から吹き下ろしてくるため、カラマツの枝は東側だけに多く残っています。小富士よりも少し標高が高いため、この日のカラマツはまだ芽吹き前でした。



グランドキャニオンを歩く

富士山グランドキャニオンは、富士山東斜面の標高 1,500m ~ 1,400m 付近にある渓谷です。高さ数十 m の谷は、現在は東に向かって開いていますが、2,500 年前の御殿場岩屑なだれで形成された崩壊カルデラの北端に位置しています。最新の研究では、グランドキャニオンの南側と北側には少し異なる堆積物が見られ、詳しい年代などもわかってきているようです。

北側の崖中部に見られる層（写真）は厚さ 60m くらいあり、降下スコリアと泥流堆積物が何十枚も重なった互層であることが確認できます。降下スコリアは約 3 万年前から 1 万年前に噴出したものだそうです。反対の南側の壁では、泥流堆積物とその上に重なる新しい時代の降下スコリア層に覆われています。南側にカルデラを形成した御殿場岩屑なだれの山体崩壊のあと、さらに北側の斜面もそのすぐ後に崩壊し、南北で高さの違う 2 段になっているそうです。その後溶岩流や泥流堆積物でカルデラの中は埋まり、さらにその後に泥流、火砕流、スコリアなどが堆積して現在のように両側の標高が同じ渓谷になったそうです（金子ほか, 2004）。



グランドキャニオンのトウゴクミツバツツジ



小富士近くのシロバナノヘビイチゴ

5 合目から小富士へのハイキングではヤマザクラがちょうど咲いていました。グランドキャニオンの渓谷では美しい新緑とミツバツツジが目を楽しませてくれます。足下にはかわいいイチゴの花も。秋の紅葉もすばらしいところです。季節をかえて何度来ても楽しそうです。



雪解け水が流れる幻の滝

幻の滝は 350 年頃流出した幻の滝溶岩流と 600 年頃流出した海苔川溶岩流が重なった境目の谷に出現します。毎年水が流れるため削られてしまっていると考えられます。山頂付近から続くおおきな雪渓から溶け出す雪解け水が、溶岩上を地下にしみこまないで流れてきます。その水量が多くなるちょうどこの時期・時間だけ、雪渓の最下部で見事な滝が見られるのです。



鷹丸尾溶岩流の末端部分

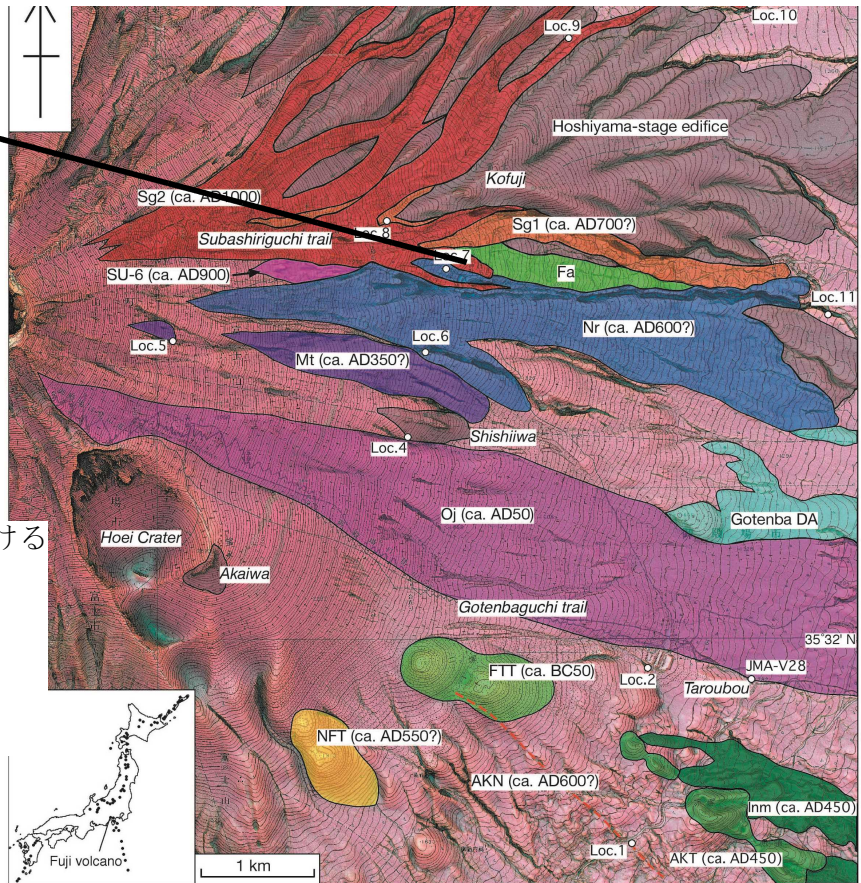
937年に流出した鷹丸尾溶岩流は、今の山中湖と周辺地形を形作った大きな要因のひとつと言えます。周辺では何カ所かで溶岩壁を見ることができますが、ここは富士山の山頂近くからからまっすぐに溶岩が流れてきたことが実感できる、観察しやすい場所のひとつです。鷹丸尾溶岩は、上部では1000年に流出した須走口2溶岩流に覆われています。



須走浅間神社

鳥居の脇で滝になっている豊富な湧水が見られます。ここは御殿場岩屑なだれ堆積物の上に、異なる時代の火山麓扇状地堆積物が重なっており、上部堆積物の末端から地下水が自噴しています。境内では地下水の水位が高く、寒冷地に育つ樹木など、独特の植生も見られます。

須走口五合目駐車場



図：富士火山東山腹における最新期噴出物の分布

(山元ほか 2011)

Mt. = 幻の滝溶岩流

Nr. = 海苔川溶岩流

引用文献：

高田亮，山元孝広，石塚吉浩，中野俊（2014）富士火山地質図第2版（Ver.1），地質調査総合センター研究資料集592，産総研地質調査総合センター。

金子隆之，吉本充宏，中田節也，藤井敏嗣（2004）富士火山の活動の総合的研究と情報の高度化に関する研究，2. 噴火履歴の研究，科学技術振興調整費成果報告書，52-61。

山元孝広，中野俊，高田亮，小林淳（2011）富士火山東斜面における最新期火山噴出物の層序，地質調査研究報告，62（11/12），405-424。

津屋弘達（1968）富士火山地質図（五万分の一）及び説明書，特殊地質図12，地質調査所